

2023春闘のたたかいに向けた千葉支部見解

JR 総連は1月27日、第45回定期中央委員会で2023JR 総連春闘について、統一要求、統一闘争を確立し、連合方針の賃上げ相当分「3%」要求を踏まえてベア10000円を要求した。これは決して根拠の無い要求ではなく、物価高騰と生活向上のために必要である。2023春闘を取り巻く環境は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響と長引く円安政策の失政により、日本の消費者物価指数はいまや4%と、昨年比から3倍以上の上昇となっている。そのため、必然的に家計の消費は圧迫され、組合員の生活は購買を控えるなど、これまで以上に苦しさを増している。長引くコロナ禍の影響もあり、生活給の一部でもある期末手当は、低額回答を余儀なくされてきた結果、組合員の実質賃金は大きく目減りしている。先行きが不透明な状況を憂い、将来を不安視する若手社員を中心に離職者は後を絶たず、人材の確保と雇用の定着はいまや労使共通の課題である。「賃上げ要求」とは、組合員の生活向上分を踏まえて算出すべきものですが、連合が掲げた3%は、実質的には物価上昇分に依拠した要求といえる。

会社は春闘交渉に入る前に「初任給特別措置の実施」を提案しました。「成長を担う人材を確保し働きがいを高めていくため」と理由を述べていますが、内容は入社4年目までの時限的な措置であり、「ベアを実施」しなくては根本問題の解決にはなりません。日本の賃金はこの30年間、ほぼ横ばいで上がっていません。私たちの平均賃金も20年前に686万円だったのが現在は640万円とまったく上がっていないのが現状です。

第3四半期決算も増収増益！3年ぶりの黒字転換！支払い能力は十分ある！全ての利益が黒字転換！逼迫する問題を抱えながら施策に向き合い、安全、安定輸送の確保に向けて奮闘し、黒字転換を果たしてきた。しかし、期末手当における会社回答は、JR東日本において夏季手当2.3ヶ月、年末手当2.4ヶ月+2万円であった。このことは黒字を達成した職場の努力に報いておらず、組合員からは、「もう我慢の限界だ」「過去最高の働き度で、過去最低の回答」「賃金減少と物価上昇による生活苦でモチベーションが上がらない」「支払い能力が十分にあって、出せるものも出さないのが経営姿勢だ」「ダンベル上げずに賃金上げろ」「紹興酒を飲ませないで要求を呑め」など、怒りに満ちた声が各機関の総括を経て千葉支部に寄せられている。

本日3月7日におこなわれた第2回交渉において、黒字化を達成したという組合側の見解とあくまで黒字を確保したがまだ目標額には達していないという会社側とで対立した。しかし目標額は会社が一方的に決めたものであり私たちはこれまでも最大限の労働力を提供して黒字化を達成してきている。また一方で会社は各種効率化施策で社員個々の業務量は減少していると言うが、各現場ではむしろ社員の減少や矢継ぎ早に降りてくる施策により業務量は確実に増大してきている。

21春闘で「昇給係数2、ベアゼロ」、22春闘では「昇給係数4、ベアゼロ」だった。今回の第2回交渉において私たちは21春闘での削減分の支給も求めたが、会社は昇給係数削減分を支給するつもりはないと回答してきた。ベア要求実現と定期昇給(昇給係数4)の完全実施を実現させるため、対話やアンケートを通じて組合員や未加入者の実態把握と議論を展開し、「生活実感」「労働実感」をベースに要求を練り上げ、経営姿勢に立ち向かってきた。しかし、組合員の苦しむ声とは裏腹に、「思ったよりもらえてよかった」という社内世論が社友会によって形成された。これは、会社が団体交渉で「一定数以上の声が集まっている」と回答したことに現れている。しかし、多くの社友会員は意見を聞かれたことすら無く、利用されたと口々にしている。この社内世論に振り回されないために、私たちの要求を堂々と掲げ、要求実現に取り組んでいこうではないか。そのために全組合員と未加入者との対話を積み重ね、本当の要求の声を打ち出していこう！

経団連は23春闘に向け、ベースアップを中心に積極的な賃上げを呼び掛けている。しかし深澤社長は経済団体の新年祝賀会の場でマスコミから賃上げの考えを聞かれ、出席した11社の中で唯一賃上げに慎重と回答した。JR東日本の消極的姿勢が露呈した。その一方でJR東日本の内部留保は過去最高を記録している。

このような経営姿勢や社友会の本質に立ち向かわなくては、23春闘においてもベアゼロや定期昇給のカットなど、私たちの要求とかけ離れた回答が示されかねない。そのためには、経営と社友会の本質を語り合いながら、JR東労組の組織拡大を実現しなければ現実を変えることは出来ない。「要求実現と組織拡大は両輪である」の意義を今一度捉え返し、全組合員の総力で組織強化・拡大を実現し、「物価上昇と組合員の生活実態に基づく賃上げ要求獲得」と「組合員の声を要求に高め、安全、健康、ゆとり」を実現するために、要求に込めた思いをお互いに確認し合うとともに23春闘勝利に向けて第3回交渉まで全職場・全組合員でたたかい抜こう！

2023年3月7日
JR東労組千葉支部執行委員会